

食育・環境教育の推進



テーマ「どこから来るの？ 私たちの食べ物」

- ・身近なメニューの買い物ゲームから見る、日本の食の実態
 - ・食を輸入に頼ることの意味・・・相手国の資源の利用
 - ・私たちの食と環境のつながり・・・
 - ・バーチャルウォーター・フードマイレージ
- ※生徒の興味を促すように、ゲーム形式の内容も取り入れています。



テーマ「地球にやさしい食とは & 鶏肉の価格」

- ・フードマイレージの低い食べ物
 - ・価格調べの結果(鶏肉・豆腐)
 - ・鶏肉が手元に届くまで(寸劇)
 - ・グループ討議
- 「スーパーの店長になってみよう!」



▲環境教育(緑のカーテン作成のため地域の方と土の準備作業)

町田市教育委員会では、子どもたちが自分の生活を見直し、環境に配慮した行動を実践することや豊かな自然体験をすることなど、環境保全や自然保護に取り組む環境教育を推進しており、「ごみ問題」、「大気汚染」、「水質汚濁」、「地球温暖化」、「騒音・振動」等、子どもたちの身の回りで起こっている課題に目を向け、自分たちができることについて考える機会を設けています。

今回は、「地域とともに考える食育・環境教育の在り方」と題して、2008・2009年度の2年間研究推進校だった南成瀬中学校の実践例を紹介いたします。

『小中一貫教育モデル校 報告会』を開催しました

実習「手づくりとうふに挑戦」

- ・豆腐作りは、調理室を使うため、各クラスごとに実施し、本職の豆腐屋さんに指導をお願いしました。



今年度からモデル校の指定を受けて、「小中一貫教育モデル校」の指定を受けた小学校6校、中学校5校が、以下のような創意・工夫ある取り組みの成果を報告しました。

互いの授業を見学したり児童・生徒アンケートを実施する事で、共通の課題や今後の取り組みを明確にしました。

大戸小学校・武蔵岡中学校。モデル校3年目。「小中9年間を通した考える力の育成」をテーマに小・中学校教員の連携による指導や、教材教具の相互活用など、教科連携を進めてきました。

また、小中高生が練習の成果を発表しあう「サタデーコンサート」を開催しました。

南大谷小学校・南大谷中学校。モデル校2年目。学力向上に向け、「話す・聞く」を中心に共同研究を行いました。小・中学校の教員が互いに学び合い、情報交換をしながら合同研修会や、運動会(体育祭)や作品展など行事等の見学を互に行いました。

木曾境川小学校。モデル校3年目。「地域で子どもを育てる」を理念に「教員の連携」「児童・生徒の連携」「カリキュラムの連携」「地域との連携」を四つの柱として実践を重ねました。今年度はスクールカウンセラーの共同活用や、中学校教員の小学校への出前授業、小・中学生の地域参加(派遣)などに取り組みました。

今年度からモデル校の指定を受けて、「言語力を育てる小中一貫教育の推進」をテーマに3校合同による校内研究会を実施し、9年間の連続性に着目した授業改善を行いました。

南第四小学校。今年度からモデル校の指定を受け、規範教育に重点を置いた学習指導や生活指導のあり方、家庭や地域との連携のあり方などを検討しました。

今回の報告会には、学校の先生や保護者・地域の方等107名が参加されました。参加者からは、「家庭教育の連続性が学校教育に結びつくことは難しい時期にある。小中一貫教育の重要性を今感じている時代はない。」「小・中学校の教員間の連携が密になることは保護者としてはとても嬉しい。」「などの感想や意見が多数寄せられ、小中一貫教育への関心の高さが伺えました。

豊かな食生活の実践」は大好評で、「なぜ、いま、「食育」なのか」というテーマをもとに、児童・生徒における朝食欠食者の増加や肥満・生活習慣病の増大、伝統ある食文化が失われつつあることや、食育は伝統文化の継承や人間形成に寄与するもので、子どもたちの成長に大きな影響を与えることなどについて話されていました。

「生活習慣と健康づくり」の8項目を今後の生活にも生かしていきたい、多岐にわたる内容で統括的な理解が図れてよかった、教職員・保護者へ

講師の東京家政学院大学の倉田澄子教授の講演「健康で

▲小中一貫モデル校報告会の様子

▲「東京都教育の日」講演会の様子

▲「全国学力・学習状況調査」の結果表

町田市教育委員会では、広く市民の皆さまに本市の学校教育へのご理解・ご協力を得ることを目的とし、昨年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を2009年10月7日から市のホームページで公表しています。

町田市教育委員会では、広く市民の皆さまに本市の学校教育へのご理解・ご協力を得ることを目的とし、昨年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を2009年10月7日から市のホームページで公表しています。

町田市ホームページ暮らしのガイド→教育委員会→学校教育→全国学力・学習状況調査の結果の公表について

町田市教育委員会では、広く市民の皆さまに本市の学校教育へのご理解・ご協力を得ることを目的とし、昨年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を2009年10月7日から市のホームページで公表しています。

町田市教育委員会では、広く市民の皆さまに本市の学校教育へのご理解・ご協力を得ることを目的とし、昨年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を2009年10月7日から市のホームページで公表しています。

町田市教育委員会では、広く市民の皆さまに本市の学校教育へのご理解・ご協力を得ることを目的とし、昨年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を2009年10月7日から市のホームページで公表しています。

町田市教育委員会では、広く市民の皆さまに本市の学校教育へのご理解・ご協力を得ることを目的とし、昨年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を2009年10月7日から市のホームページで公表しています。

町田市教育委員会では、広く市民の皆さまに本市の学校教育へのご理解・ご協力を得ることを目的とし、昨年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を2009年10月7日から市のホームページで公表しています。

町田市教育委員会では、広く市民の皆さまに本市の学校教育へのご理解・ご協力を得ることを目的とし、昨年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を2009年10月7日から市のホームページで公表しています。

【調査結果から】町田市の平均正答率は、小・中学校共に、東京都・全国とほぼ同じ数値を示しています。また、小学校国語・算数、中学校数学の知識・技能を「活用する力」に全国的に課題があることがわかりました。改善策として、小学校の段階では、自分が考えたことを明確に表現するために、文章と資料とを関係付けて表現したり、根拠となる事柄を明らかにして説明したりする習慣を身に付けること。中学校の段階では、数や図形について成り立ちのような事柄を予想し、予想した事柄を正確に表現し、別の具体的な場合で確かめたり、実生活の場面における問題解決では、事象を理想化・単純化して数学の問題としてとらえたりする学習を取り入れることなどが大切だと考えます。

「全国学力・学習状況調査」の結果表

	国語		算数	
	A: 主として知識	B: 主として活用	A: 主として知識	B: 主として活用
町田市	71.2% (12.8/18)	52.7% (5.3/10)	79.0% (14.2/18)	59.0% (8.3/14)
東京都	71.6% (12.9/18)	53.6% (5.4/10)	79.7% (14.3/18)	58.7% (8.2/14)
全国	69.9% (12.6/18)	50.5% (5.1/10)	78.7% (14.2/18)	54.8% (7.7/14)

【中学校】平均正答率 ※ () 内の数値: 平均正当数/問題数

	国語		数学	
	A: 主として知識	B: 主として活用	A: 主として知識	B: 主として活用
町田市	76.8% (25.3/33)	73.8% (8.1/11)	64.2% (21.2/33)	57.9% (8.7/15)
東京都	77.0% (25.4/33)	73.8% (8.1/11)	62.6% (20.6/33)	56.8% (8.5/15)
全国	77.0% (25.4/33)	74.5% (8.2/11)	62.7% (20.7/33)	56.9% (8.5/15)

「全国学力・学習状況調査」の結果を公表しています